

## 九州沿岸初記録のマツバギンポとフタホシニジギンポ

餅田 樹<sup>1</sup>・森下悟至<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup><sup>1</sup> 〒 890-0042 鹿児島市薬師 1-21-9 鹿児島高等学校英数科<sup>2</sup> 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学大学院水産学研究所<sup>3</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

## ■ はじめに

イソギンポ科魚類 (Blenniidae) は世界で約 60 属 390 種が知られており, そのうち 30 属 80 種が日本国内から記録されている (村瀬ほか, 2011; 藍澤・土居内, 2013). 薩摩半島西岸における魚類相調査の過程で, 4 個体のマツバギンポ属と 2 個体のハタタテギンポ属魚類が採集された. その後, これらの標本はそれぞれマツバギンポ *Mimoblennius atrocinctus* (Regan, 1909) とフタホシニジギンポ *Petroscirtes springeri* Smith-Vaniz, 1976 に同定された. 各種の日本国内における記録はマツバギンポが八丈島から高知県沖の島にかけての太平洋沿岸, 小笠原諸島, および鹿児島県硫黄島以南の琉球列島で, フタホシニジギンポが山口県日本海沿岸, 千葉県館山湾から高知県柏島にかけての太平洋沿岸, および愛媛県室手である (藍澤・土居内, 2013). したがって, 両種は九州沿岸からの初記録となるためここに報告する.

## ■ 材料と方法

マツバギンポとフタホシニジギンポの標本の

Mochida I., S. Morishita and H. Motomura. 2019. First records of two blennioid fishes, *Mimoblennius atrocinctus* (Regan, 1909) and *Petroscirtes springeri* Smith-Vaniz, 1976, from Kyushu, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 45: 391-396.

✉ HM: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

Published online: 23 April 2019

[http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_045/045-068.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-068.pdf)

計数・計測はそれぞれ, 川間ほか (2017) と Smith-Vaniz (1976) にしたがった. 頭部感覚孔の名称は藍澤・土居内 (2013) にしたがった. なお, 眼上皮弁は左右の分枝数を計数した. 標準体長は体長または SL と表記し, 体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった. 両種の色彩の記載は, 固定前に撮影された笠沙産の標本 (記載標本の項を参照) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の画像は同館のデータベースに登録されている.

## ■ 結果と考察

*Mimoblennius atrocinctus* (Regan, 1909)

マツバギンポ (Fig. 1, Table 1)

標本 4 個体: KAUM-I. 124425, 体長 48.1 mm, KAUM-I. 124426, 体長 39.5 mm, KAUM-I. 124489, 体長 23.9 mm, KAUM-I. 124490, 体長 23.5 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦米島南方 (31°25'55"N, 130°07'19"E) 水深 6-14 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 山田守彦ほか.

記載 計数・計測値は Table 1 に示した. 体は細長く後方に向かうにしたがい側扁する. 体背縁は吻端から眼にかけてほぼ垂直に上昇し, その後背鰭第 1 棘基部にかけて緩やかに上昇, そこから尾柄部にかけて極めて緩やかに下降する. 体腹縁は吻端から腹鰭基部にかけて下降しそこから胸鰭基底直下にかけて上昇し, 臀鰭第 15 軟条基底に

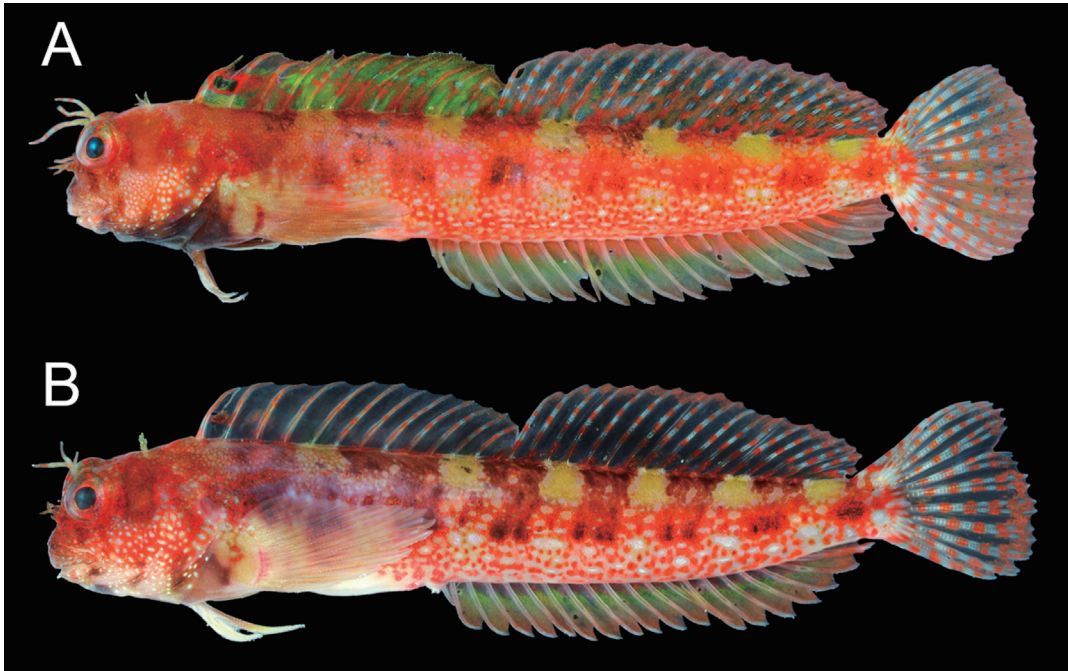


Fig. 1. Fresh specimens of *Mimoblennius atrocinctus* from Kasasa, Minami-satsuma, Kagoshima, Japan (A: KAUM-I. 124425, 48.1 mm SL; B: KAUM-I. 124426, 39.5 mm SL).

かけて緩やかに上昇，そこから尾鰭基底にかけて上昇する。頭部の輪郭は丸みをおびる。上顎の先端は下顎よりも前方に突出し，上唇は厚い。鼻孔は眼の前方に位置し，前鼻孔は管状で，後縁に先端が二分した皮弁を有する。後鼻孔は円形で，前縁はわずかに伸長する。眼上皮弁は基本的に2叉し，その長さは眼径より大きい。項部に小さな葉状の皮弁を具える。胸鰭基底上端は鰓膜後端直後に位置する。胸鰭は前後方向に伸びた楕円形を呈し，その後端は肛門直上に達する。背鰭起部は鰓膜上端直上に位置し，最後軟条は鰭膜により尾柄に癒合する。背鰭軟条は分枝しない。肛門は円形で臀鰭起部の直前に位置する。腹鰭は細長く，腹鰭起部は背鰭起部よりわずかに前方に位置する。臀鰭起部は背鰭第10棘基部直下に位置し，最後軟条は鰭膜で尾柄部と癒合する。尾鰭は円形で，中央の9軟条は分枝する。

**色彩** 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 体色の変異は大きく，体側の地色はオレンジ色で，7個の茶褐色から赤褐色の鞍状斑がはいり，その間はクリーム色を呈する。腹部は白色で，体側下方に赤褐色小斑が散在する (KAUM-I. 124425 は体側下部の

地色がオレンジ色で白色小斑が散在する)。頭部の地色は赤褐色で，頬部と鰓蓋に白色小斑が散在する。頭部腹面は白色で黒色横帯が2-3本はあり，腹鰭基底付近は黒色を示す。(KAUM-I. 124425 は頭部腹面から腹鰭基底にかけて一様に黒色を呈する)。眼上皮弁と項部皮弁は朱色が混じるクリーム色。背鰭第1-2棘間の鰭膜に赤色で縁取られた暗色斑がある。背鰭鰭膜は一様に白色半透明 (KAUM-I. 124425 の背鰭鰭膜の前半部は鮮やかな黄色を呈し，朱色の雲状斑がある。後半部の基底付近は朱色がかかる)。軟条は白色半透明で，軟条に沿って赤色斑が等間隔に整列する。ただし，背鰭前半部はやや不明瞭。胸鰭は黄色みがかった半透明で，基底はクリーム色。胸鰭基底部に三日月形の赤褐色斑がある。腹鰭は白色で，基底部付近は暗色を呈する。臀鰭鰭膜と軟条基部付近は淡い赤色で中間部は淡い黄色，先端は淡い茶褐色を呈する。尾鰭軟条と鰭膜は白色半透明で，軟条に沿って赤色斑が等間隔に並ぶ。

**分布** マツバギンボはスリランカから日本およびオーストラリア西岸にかけてのインド・西太平洋に分布する (Allen and Adrim, 2003; Allen and

Erdmann, 2012; 藍澤・土居内, 2013). 日本国内では八丈島, 和歌山県田辺・串本, 高知県沖の島, 小笠原諸島, および鹿児島県硫黄島以南の琉球列島から記録されている (Fukao, 1985; Senou et al., 2002; 藍澤・土居内, 2013; 日黒, 2013; Nakae et al., 2018). 本研究により薩摩半島西岸においても分布が確認された.

**備考** 記載標本は背鰭棘数が通常 13, 腹鰭が 1 棘 3 軟条, 頭部に小さな項部皮弁をもつ, 臀鰭最後軟条が鰭膜によって尾柄部に癒合することなどが Springer and Spreitzer (1978), Springer (2001), および藍澤・土居内 (2013) の示した *Mimoblennius atrocinctus* の標徴によく一致したため, 本種に同定された.

Allen and Erdmann (2012) や藍澤・土居内 (2013) はマツバギンボの背鰭棘数を 13 としたが, KAUM-I. 124426 と 124489 では 12 であった. 本研究ではこれらの差異は種内変異の範囲内と判断した.

マツバギンボの国内における記録は分布の項に示したとおりである. したがって, 本報告で示した記載標本は本種の九州沿岸における初めての記録となる.

***Petroscirtes springeri* Smith-Vaniz, 1976**

フタホシニジギンボ (Fig. 2; Table 1)

**標本** 2 個体: KAUM-I. 124418, 体長 43.7 mm, 鹿児島県南さつ各市笠沙町片浦米島南方 (31°25'55"N, 130°07'19"E), 水深 6–14 m, 2018 年 12 月 16 日, 手網, 山田守彦ほか, KAUM-I. 128152, 体長 37.5 mm, 鹿児島県南さつ各市笠沙町片浦立羽島南岸 (31°25'30"N, 130°10'48"E), 2018 年 9 月 27 日, 手網, 山田守彦.

**記載** 計数・計測値は Table 1 に示した. 体は細長く, 後方に向かうにしたがい側扁する. 口は端位であり, 両顎の先端はほぼ同じ. 背鰭の前端は高くならない. 頭部の輪郭は丸みを帯びる. 後

Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of specimens of *Mimoblennius atrocinctus* and *Petroscirtes springeri* from Kasasa, Minami-satsuma, Kagoshima, Japan.

KAUM-I.	<i>M. atrocinctus</i>				<i>P. springeri</i>		
	124425	124426	124489	124490	124418	128152	
Standard length (SL; mm)	48.1	39.5	23.9	23.5	Standard length (SL; mm)	43.7	37.5
Counts					Counts		
Dorsal-fin rays	XIII, 18	XII, 17	XII, 17	XIII, 18	Dorsal-fin rays	XII, 11	XII, 11
Anal-fin rays	II, 20	II, 18	II, 19	II, 18	Anal-fin rays	II, 18	II, 20
Pectoral-fin rays (left / right)	15 / 15	15 / b	15 / 15	14 / 15	Pelvic-fin rays	1, 3	1, 3
Suborbital cirri (left / right)	1 / 2	2 / 1	2 / 2	2 / 2	Pectoral-fin rays	14	—
Measurement (% SL)					Caudal-fin rays	11	17
Total length	56.2	47.9	24.2	25.1	Upper conical tooth	0	0
Head length	21.0	21.3	26.0	21.9	Upper tooth	18	5
Pre-dorsal-fin length	21.4	23.6	24.5	26.6	Lower conical tooth	1	b
Pre-anus length	39.7	44.1	47.0	48.1	Lower tooth	18	6
Body depth	17.2	19.0	19.2	20.6	Measurements (% SL)		
Caudal-peduncle depth	7.0	7.7	7.5	7.7	Head length	10.9	9.8
Caudal-peduncle length	4.1	3.6	4.4	6.0	Orbit diameter	3.7	3.6
Dorsal-fin base length	85.0	82.5	71.1	83.6	Body depth	6.4	4.7
Anal-fin base length	55.6	50.9	52.3	49.4	Pre-anus length	21.5	19.9
Snout length	7.7	7.1	6.1	6.6	1st dorsal-fin spine length	2.0	4.0
Interorbital width	1.8	1.2	1.3	1.6	2nd dorsal-fin spine length	3.8	5.2
Orbit diameter	7.3	7.2	7.4	8.8	3rd dorsal-fin spine length	3.8	5.0
1st dorsal-fin spine length	5.3	6.2	7.4	11.1	4th dorsal-fin spine length	4.1	5.5
2nd dorsal-fin spine length	8.5	7.9	9.9	12.6	1st dorsal-fin soft ray length	4.9	3.7
3rd dorsal-fin spine length	8.5	8.1	9.4	13.5	Pelvic-fin length	3.3	4.6
12th dorsal-fin spine length	6.7	8.4	7.4	8.7	Longest caudal-fin ray length	8.0	4.6
1st anal-fin soft ray length	6.7	8.2	9.1	9.4	Shortest caudal-fin ray length	2.8	1.6
Pectoral-fin length	19.6	24.4	26.1	27.6			
Pelvic-fin length	12.4	18.3	17.3	20.3			



Fig. 2. Fresh specimen of *Petrosirtes springeri* from Kasasa, Minami-satsuma, Kagoshima, Japan (KAUM-I. 124418, 43.7 mm SL).

方に向かうにつれて側扁する。体背縁は吻端から眼にかけて著しく上昇し、その後背鰭第2軟条基部までわずかに上昇する。そこから尾柄部にかけて極めて緩やかに下降する。体腹縁は吻端から腹鰭起部にかけてなだらかに下降した後、そこから肛門にかけて体軸と平行、肛門後方から尾鰭基底は尾柄部に向かって極めて緩やかに上昇する。両顎の先端は同じ。上顎の後端は眼の前縁直下に達する。鼻孔は眼の前方に位置し管状。後鼻孔は短い皮弁を有する。頭部感覚管の開孔は単純。下顎管は下顎後端下方に位置し3孔で、各孔はつながりそれぞれ短い皮弁を伴う。前鰓蓋管は前部で3孔が前後方向に1列に並び、後部で3孔が背腹方向に1列に並ぶ。鼻域孔は頭部背面の眼隔域前方にあり左右2対。眼隔管は左右2対4孔のうち2孔のみが開孔。眼上管は眼の後方、背腹方向に2孔。眼下管は眼を取り囲むように並び、前方に背腹方向に3孔、下方に前後方向に3孔、後方に1孔が開孔する。上側頭管は背鰭起部前方に1孔、その左右後方に1対あり計3孔。側頭管は上側頭管の下方から体軸と平行に背鰭第2棘基部側方にかけて前後方向に3孔が並び、側線管は前後方向に伸長した管状で6つあり、それぞれの前後両端で開孔する。最前のは第3背鰭棘下方から始まりやや上昇した位置でおわる。2-4個目はそれぞれ背鰭第4棘基部直下から背鰭第5棘基部直下まで、第5棘基部直下から第6軟条棘基部直下まで、第6棘基部と第7棘基部の間から第3軟条基部と第4軟条基部の間に体軸と平行に並び、5個目は第8棘基部直下から始まり、斜め後下方に伸長し、第9棘基部直下でおわる。最後の

ものは背鰭第11棘直下から始まり、第12棘直下でおわる。胸鰭基底上端は背鰭第5棘基部直下に位置する。胸鰭は円形を呈し、その後端は背鰭第11棘基部直下に達する。背鰭起部は鰓膜上端より前方に位置し、背鰭最後軟条は鰭膜により尾柄に癒合する。背鰭軟条は分枝しない。肛門は円形で臀鰭起部の直前に位置する。腹鰭は細長く伸長し、その基部は背鰭第3棘基部直下に位置する。臀鰭起部は背鰭第2軟条基部直下に位置する。臀鰭最後軟条は鰭膜で尾柄部と癒合する。尾鰭後縁はごくわずかに突出したゆるやかな二重載形を呈する。

**色彩** 生鮮時の色彩 (Fig. 2) — 吻端から眼を通り、尾柄部に達する暗色縦帯があり、それより背側は淡い茶褐色、腹側は淡い黄土色となる。腹面および頭部腹面は淡く、黄色みがかった乳白色を呈する。体側上方は茶褐色の8個の鞍状斑が並び、鰓蓋および尾鰭基底にそれぞれ1暗色斑がある。頬部に茶褐色の小斑が散在する。胸鰭の軟条は白色半透明で、鰭膜は淡い茶色。背鰭は黄土色で、基底付近は黒色を呈し、後半部の外縁は白みがかかる。背鰭鰭条は茶褐色。腹鰭は黄色みがかった白色。臀鰭の基底付近は褐色がかった黄色で、外縁は白みがかかる。臀鰭鰭条は淡く黄色みがかった乳白色を呈す。尾鰭軟条は赤みがかった茶褐色で、鰭膜は茶色みをおびた白色半透明。

**分布** フタホシニジギンボは東アジア固有種で、日本と台湾からのみ記録されている。日本国内では山口県日本海沿岸、千葉県館山湾から高知県柏島にかけての太平洋沿岸、および愛媛県室手から記録されており (藍澤・土居内, 2013)、本

研究により薩摩半島西岸においても分布が確認され、日本国内における分布の南限記録となる。

**備考** 記載標本は背鰭棘数が12、下顎管と上顎頭管がそれぞれ3孔、下顎皮弁が分枝する、幅広い暗色縦帯が吻端から尾柄部にかけての体側中央にある、鰓蓋と尾鰭基底にそれぞれ1暗色斑があることなどがSmith-Vaniz (1976)や藍澤・土居内 (2013) の示した *Petrosirtes springeri* の標徴によく一致したため、本種に同定された。

*Petrosirtes springeri* は台湾から得られた1個体に基づき、新種記載された (Smith-Vaniz, 1976)。その後、Yatsu et al. (1983) によって愛媛県西海と静岡県富戸から得られた標本に基づき、日本初記録として標準和名が提唱された。フタホシニジギンボは細長い体型で体側に褐色縦帯があることなどから、ニジギンボ *Petrosirtes breviceps* と類似するが、鰓蓋と尾柄部にそれぞれ1暗色斑があることや下顎皮弁が分枝することで容易に識別される (藍澤, 1997; 藍澤・土居内, 2013)。

フタホシニジギンボの国内における記録は分布の項に示したとおりであり、これまで鹿児島県内の魚類相調査においても報告されていない (Motomura et al., 2010, 2016; 本村ほか, 2013, 2019; 本村・松浦, 2014; Motomura and Harazaki, 2017; 岩坪・本村, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 小枝ほか, 2018)。したがって、本報告に用いた記載標本はフタホシニジギンボの鹿児島県における初めての記録であるとともに、九州沿岸からの初記録である。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・

アフリカ学術基盤形成型、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

## ■ 引用文献

- Allen, G. R. and M. Adrim. 2003. Coral reef fishes of Indonesia. *Zoological Studies*, 42 (1): 1–72.
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. *Tropical Reef Research*, Perth. xiii + 1292 pp.
- 藍澤正宏. 1997. フタホシニジギンボ *Petrosirtes springeri*. P. 565. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 藍澤正宏・土居内龍. 2013. イソギンボ科. Pp. 1295–1324, 2101–2105. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Fukao, R. 1985. An annotated list of blennioid fishes from Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan. *Seto Marin Biological Laboratory*, 30: 81–124.
- 岩坪洗樹・本村浩之 (編). 2017. 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 302 pp.
- 川間公達・伊東正英・本村浩之. 2017. 鹿児島県薩摩半島から得られたイソギンボ科魚類オボロゲタゲガミカエルウオ. *Nature of Kagoshima*, 43: 219–222.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編). 2018. 黒潮あたる鹿児島島の海 内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 520 pp.
- 目黒昌利. 2013. マツバギンボ *Mimoblennius atrocinctus* (Regan, 1908). Pp. 309–310. 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編). 鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類相. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一 (編). 2013. 鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類相. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 390 pp.

- Motomura, H., A. Habano, Y. Arita, M. Matsuoka, K. Furuta, K. Koeda, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, S. Tashiro, H. Hata, Y. Fukui, K. Eguchi, T. Inaba, T. Uejo, A. Yoshiura, Y. Ando, Y. Haraguchi, H. Senou and K. Kuriwa. 2016. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. *Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University*, 64: 10–34.
- 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編). 2019. 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島. 436 pp., 3370 figs.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- Motomura, H., K. Kuriwa, E. Katayama, H. Senou, G. Ogihara, M. Meguro, M. Matsunuma, Y. Takata, T. Yoshida, M. Yamashita, S. Kimura, H. Endo, A. Murase, Y. Iwatsuki, Y. Sakurai, S. Harazaki, K. Hidaka, H. Izumi and K. Matsuura. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pp. 65–248 in Motomura, H. and K. Matsuura, eds. *Fishes of Yaku-shima island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 本村浩之・松浦啓一(編). 2004. 奄美群島最南端の島一与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 648 pp.
- 村瀬敦宣・原崎 森・目黒昌利・本村浩之. 2011. 屋久島を分布北限とするイソギンボ科魚類3種の記載と生息状況. *日本生物地理学会会報*, 66: 61–73.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memories of the National Museum Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- Senou, H., G. Shinohara, K. Matsuura, K. Furuse, S. Kato and T. Kikuchi. 2002. Fishes of Hachijo-jima Island, Izu Islands Group, Tokyo, Japan. *Memoirs of the National Science museum, Tokyo*, 38: 195–237.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74.
- Smith-Vaniz, W. F. 1976. The saber-toothed blennies, tribe Nemo-phini (Pisces: Blenniidae). *Academy of Natural Sciences of Philadelphia, Monograph*, 16: 1–196.
- Smith-Vaniz, W. F. 2005. *Petroscirtes pylei*, a new saber-toothed blenny from the Fiji Islands (Teleostei: Blenniidae). *Zootaxa*, 1046: 29–36.
- Springer, V. G. 2001. Blenniidae. Pp. 3538–3546. In Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. *Species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals*. FAO, Rome.
- Springer, V. G. and A. E. Spreitzer. 1978. Five new species and a new genus of Indian ocean blennioid fishes, tribe Salariini, with a key to genera of the tribe. *Smithsonian Contributions to Zoology*, 268: i–iii + 1–20.